

様式第3

会 議 録

会 議 名	平成28年度第3回野田市環境審議会
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	(1) 委員長の互選について (公開) (2) 副委員長の互選について (公開) (3) 環境基本計画の見直しについて (公開) パブリック・コメント手続の意見募集の結果について (4) 環境調査報告書 (案) について (公開)
日 時	平成29年2月24日 (金) 午前10時から午前11時50分まで
場 所	野田市保健センター 3階 大会議室
出席委員氏名	委 員 長 菊池喜昭 副委員長 今井泰彦 委 員 浅野幸男 五百川和家恵 石山正剛 鍛冶利幸 金本秀之 上口清彦 島田ゆかり 関口一郎 関根理恵 添野博 竹澤浩美 山中啓司
欠席委員氏名	無し
事 務 局	鈴木市長、今村副市長、柏倉環境部長、牛島環境部次長、坂齊環境保全課長、田中環境保全課長補佐、松井環境保全課公害対策係長、長濱環境保全課環境保全係長、宮澤企画調整課長、田路管財課長、松本営繕課長、山下農政課長、寺田みどりと水のまちづくり課長、知久清掃第一課長、横張清掃第二課長、千葉管理課長、松本道路建設課長、渡邊下水道課長、渡邊都市計画課長、浅野都市整備課長、中村教育総務課長、長妻学校教育課長、桑原指導課長、伊藤生涯学習部次長
傍 聴 者	無し
議 事	平成28年度第3回野田市環境審議会の会議結果 (概要) は、次のとおりである。

議案第 1 号 委員長の互選について

菊池委員が委員長に選任。

議案第 2 号 副委員長の選任について

今井委員が副委員長に選任。

議案第 3 号 環境基本計画の見直しについて

菊池委員長

議案第 3 号野田市環境基本計画の見直しについて、パブリック・コメント手続の結果について、事務局より説明をお願いします。

坂齊環境保全課長

<パブリック・コメント手続の結果について説明>

菊池委員長

パブリック・コメント手続で寄せられた意見が無かったようですので、環境基本計画の見直しについては、「野田市環境基本計画」改訂の素案を了承することよろしいでしょうか。

< 異議無しの声 >

菊池委員長

続きまして、議案第 4 号野田市環境調査報告書（案）について、事務局より説明をお願いします。

坂齊環境保全課長

<野田市環境調査報告書（案）について説明>

菊池委員長

ただ今、説明のありました野田市環境調査報告書（案）について、御意見、御質問等がありましたらお願いします。

柏倉環境部長

御報告を一点申し上げたいと思います。報道で御存知だと思いますが、柏市の体育館におきまして、植え込みから高い放射線量が見つかった報道がございました。面的というよりも点として、マイクロスポットということで植え込みに汚泥などが堆積されていたということで、高い線量があったということでございます。それを受けまして野田市でも2月17日に約300の公共施設内の側溝汚泥や落ち葉の集積場が放置されていないかを、一斉点検を実施しているところでございます。もし、放置されている場合には、放射線量を量る作業を現在も進めているところでございます。今報告されているのは、数箇所ではございますが基準値を超える箇所はございません。また、一斉点検を行う前に、小中学校12校で太陽光パネルの屋根貸し事業を行っておりましたので、小中学校で2月14日と16日にこの12校の屋上に堆積した汚泥の空間線量を測定しました。市の独自の測定高5cmで測定したところ、基準値が1時間当たり0.23マイクロシーベルトでございますが、それを超える学校が5校ほどあったことが判明しました。この5校につきまして採取した汚泥を2月23日に市の職員が簡易検査を実施しまして、放射性セシウムいわゆるベクレル量を測定いたしました。このベクレル量は、廃棄物を安全に処理するための基準値でございまして、1kg当たり8000ベクレルを超えると指定廃棄物ということになります。8000ベクレルを超えたのは1校だけありました。この1校につきましては、汚泥の量は約5立方メートルほど堆積しておりましたが、現在はすべて撤去しております。今後につきましては、特措法に基づきまして指定廃棄物として適正に処理をしていきたいと考えております。ただし、残る19校および市立幼稚園2園の屋上につきましても2月23日に空間線量をすべて測定しまして、基準値の0.23マイクロシーベルトを超えた所はございませんでしたので、大事には至らなかったということでございます。

基本的に市では1時間当たり0.23マイクロシーベルトの基準値を超えた5校につきましては、児童・生徒が屋上へ上がることはさせておりません。また、全ての小中学校の生活空間といわれる校庭、マイクロスポットになり得る雨どい下や、集水桝につきましては、定期的に空間線量を測定しております。現在まで基準値を超える数値はないために学校等においても安全性は、確保されていると考えております。

また、その他の市の施設の屋上につきましても、3月末を目途に現在作業を進めていくつもりですので御了承いただきたいと思います。この件につきまして本日、プレス発表させていただきますので、前もって審議会の皆さんには御報告差し上げたということでございます。よろしくお願いいたします。

菊池委員長

本日、プレス発表があるということで御報告いただきました。議題に入る前にこの件につきまして御質問等ありましたらお願いいたします。

鍛冶委員

空間線量を測っておられて、それは妥当なものであり、今のご報告でも特に疑義があるわけではないのですけれど、例えば保育所の場合は、子供が滑り台を滑り降りて、手をついたりとか、砂場で遊んだりとかありますので、空間線量で全て大丈夫とするのではなくて、もう少し、可能であればもう少しきめ細かな測定はできないのかなと思いましたが、いかがでしょうか。

坂齊環境保全課長

一部の保育所については、震災当時に高い所がありましたので、そのような砂は全て取り換える形で、行っております。

菊池委員長

それでは、報告書について議論したいと思います。どこからでも結構です。

添野委員

2ページですが、27年度の報告書と比較しますと、面積が若干増減がございまして、トータルの面積は変わらないですが、面積の増減というのは用途の変更による増減なのか、それとも測定の結果として変わってきたのか質問させていただきます。

渡邊都市計画課長

御質問の面積の違いは、測定方法ではなく昨年度に市街化調整区域・市街化区域の若干の見直しと用途地域の変更がございましたので、その結果によるものです。

添野委員

57ページ二ツ塚地区では、アルデヒド類の定性結果の報告や、揮発性有機化合物の分析結果の報告が、昨年データでは6項目にわたって報告がなされておりますが、今年、報告書では削除されておりますが、削除した理由やその他なにかありましたらお教えいただきたいと思っております。

坂齊環境保全課長

昨年は、平成26年度の調査報告書では公害等調整委員会でこのような結果が出ているので、原因裁定の資料ということで調査いたしました。平成27年度は、打ち切られてしまい調査をしていませんので、27年度については調査結果を載せることがありませんでした。今後、調査することがあれば、報告書の中で報告していきたいと考えております。

添野委員

114ページの9-2の表ですが、地盤沈下変動という表がございまして、26年度はほぼ全域で地盤起伏があるということで、その前のデータと比較しますと、今までにない傾向を示しているわけですが、どのような理由で起伏が行われたのかということについて、お尋ねしたいと思います。

坂齊環境保全課長

地盤沈下については、千葉県が調査しておりまして、27年度の調査結果を本来はここに載せるべきだったのですが、まだ報告が貰えておりません。千葉県の方から27年度の結果報告があり次第、修正させていただきたいと思います。

先ほどの隆起の原因ですが、震災によって1回大きく地盤沈下しておりまして、その後5年が経過して、その中でのリバウンドではないかと考えております。専門的なことは、私の方で確認はできないですが、一般的にはリバウンドが発生したのではないかといわれています。27年度の結果が、リバウンドが更に進むのか、もう終わってしまうのか正常に戻るのかは、今後の結果を見て、判断していく形になると思います。

添野委員

環境美化負担金の交付について、私も長い間、自治会活動をしてきましたが、このような負担金の交付があることを知りませんでした。このようなことに関して、どのような形で、市民にPRしてきたのか、お伺いしたいと思います。

坂齊環境保全課長

こちらの周知につきましては、減量等推進員のあつまる年1回の大きな会議の中で、環境美化負担金を行っていることを周知させていただいていますが、広く全部の市民に対して、広報するというのであれば市報に載せるということになりますが、今のところそこまで行っていない状況です。

添野委員

是非、その辺のPRをしていただいた方が、よろしいのではないかと思います。

菊池委員長

今、御質問がありましたが、説明していないところや疑問に思うところや、市としてどのような対応なのかも含めて、御意見を伺うのが良いかと思います。

山中委員

27ページですが、表3-2の環境指標の項目の達成度ですが、特に1-1自然観察会のイベントの回数ですが、行政がやったものをカウントしているのか、それとも市民団体等が行ったものをカウントした数値なのか教えていただければ、ありがたいと思います。

寺田みどりと水のまちづくり課長

こちらについては、市とボランティア団体さんの協働で実施した活動について、記載させていただいております。もちろん市民の方々が、独自にやったものはこれ以上多数あることは承知しておりますが、ここに載せたものは、あくまでもみどりと水のまちづくり課が関連したものであるということで、1-1の里山の保全と活用につきましては、三ツ堀里山自然園の活動や江川地区での活動を載せております。それと1-2自然とのふれあいの確保につきましては、みどりのふるさと実行委員会の活動について載せさせていただいているところでございます。

山中委員

この環境計画の中にも市民との協働ということで、書かれている項目が結構多いのですがカウントについても、野鳥同好会だとか、鳥の観察だとか、そういったものも、こういったところに載せるには、行政計画と市民団体と差はあると思いますが、そのようなものも含めて、具体的に把握をしていただいた方が、意外とそういった活動はしていると分かりますので、御検討していただければありがたいと思います。

菊池委員長

ありがとうございます。

表に書くのに気になるので、書けないかもしれませんが、文章として加えるという

のは十分に考えられますので、市の方でまたお考えいただいたらと思います。

鍛冶委員

私は初めてなので、教えていただきたいのですけれども、PM2.5ですけれども、野田市はPM・NO法の適用になっている地域でしょうか。

坂齊環境保全課長

規制のエリアにはかかっていません。

鍛冶委員

それから、硫黄酸化物をアルカリろ紙法という方法で測定しておられますが、これはどのような方法なのかということと、この方法は公定法ではないように思うのですが、どうしてこの方法を選択されているのか、教えていただきたいと思います。

坂齊環境保全課長

委員が御指摘のとおり、公定法ではなくて、簡易的な方法でアルカリろ紙を空気中に置いておいて、そこに硫黄の物質が吸着した時の量を測っているような測定でございます。これを採用したのは、非常に安価でできるということで、この値に対して環境基準と比較するわけではなく、ただ状況の変化を見ていこうということで、古くから行っているものです。

鍛冶委員

今なぜこれをお聞きしたかといいますと、51ページのグラフを見ますと、ゼロとなったり数値が出てきたりを繰り返していて、測定法上の感度の問題があるのではないかと思います。せっかく測定するときに、硫黄酸化物であると溶液導電率法であるとか公定法とかがあると思いますので、それでやらないとごつごつ感が解消されないと、せっかくのデータがしっかりと生きないのではないかと感じたものですから、質問しました。

もう一つは、56ページの二ツ塚地区の大気汚染の問題に関してですが、VOCだということですが、具体的にどういう化学物質なのか特定はされているのでしょうか。もし、判っていることがありましたら、教えていただきたいと思います。

坂齊環境保全課長

かなりの定性分析、定量分析をやった26年度の測定結果では、500種類くらいの物質が検出されておりまして、その1個1個をこの物質が原因であると特定はできない、それがネックになって、公害等調整委員会でも、原因裁定が棄却されたという結果になっております。ですから、出てきている物質としては、トルエンなどが当然大きくは出ていますが、トルエンは環境基準がかなり緩いものですから、もう少し有毒なものが出ていることを予想して、分析をしているのですが、この物質だというのはなかなか特定できていない状況でございます。

上口委員

86ページでございますが、データでは6-25梅郷第一28.0、聖華幼稚園脇で24.0と非常に高い数字が出ています。これは先ほどの説明では雑排水のものではないかという指摘がございましたが、具体的に汚染原因が分かっているどのような対策をとるのか、これが一番問題になると思います。これについて明快な答えを是非お願いしたいと思います。

坂齊環境保全課長

対策ということですが、環境部の調査報告という点では、測定を行い、それについて報告していくという形で、生活雑排水が原因であろうというふうには思っております。その直接的に対策といたしましては、公共下水につながっていれば小排水には流れてこないということで、後は合併浄化槽の普及をすることで、単独のものを合併にすれば、当然外にU字溝を通して、梅郷第一樋管のほうに流れ込むBODというものが減っていくのではないかと考えております。

合併浄化槽については、担当の方から説明させていただきます。

渡邊下水道課長

今、環境の方からありました説明のとおりでございます。まず、第一次的には下水道計画区域内でございましたら、公共下水道の整備を図る、併せて下水道を入れただけでは水質改善にはつながりませんので、当然つないでくださいという形のPRをしていく、下水道整備区域外につきましては、浄化槽が有効な手段となるかと思っております。その中で、合併浄化槽の切替えにつきまして、補助金を充てて、促進していくという形での改善を図っているところでございます。

上口委員

前回の環境審議会の基本計画の中でも同じ答えが出ています。今の答弁の中で、結果的には間違いはないですが、合併浄化槽化をしたとして、それは適正管理を実施しているかどうか、これは大きな問題だと思います。適正管理というのは、大きく分けて3つあると思います。法定点検、それから維持管理、清掃、この3つが併せて適正管理と私は考えております。現実に国からでも県でも同じ指導をしているはずですが、その実施率、たとえば野田市で独自にそういう計画をして教育をしているかどうか、これは今後大きな課題になってくると思います。

もう一つ抜け穴がありまして、汲み取り便槽は、合併浄化槽にしてもらわないと、便槽は処理施設で処理しますが、雑排水は垂れ流しです。あの地域は、旧民家が結構多いと思います。その辺を教えてくださいたいと思います。

渡邊下水道課長

御質問のありました、市の啓発の話でございますけれども、浄化槽の日は10月1日と思っておりますけれども、市報の方に掲載させていただきまして、浄化槽は当然メンテナンスしなければならないという話の内容を盛り込んだ形の市報PRをさせていただいております。併せて、頻度はなかなか得られないところではございますけれども、合併浄化槽を使われる方々の啓発等、勉強を兼ねて勉強会を、千葉県主体になりますが実施させていただいているところでございます。

汲み取りの話ですが、これも委員さんがおっしゃったとおりでございますが、汲み取りトイレについて雑排水は生のままではないか、まさにそのとおりでございます。汲み取りにつきましても、合併浄化槽への切り替えをしますという方は、当然、合併浄化槽の補助の対象となりますので、そちらの方を有効かつPRしていきたいと考えております。

上口委員

質問になります。県内の浄化槽の補助金制度の考え方が、市町村によってかなり変わってきております。多くの県は、単独浄化槽から合併浄化槽の切替えしか、認めないと言っていますが、野田市の現状を教えてください。

渡邊下水道課長

野田市におきましては、単独も汲み取りも補助させていただいている状況でございます。

上口委員

次の問題に触れさせていただきます。単独浄化槽から合併浄化槽の補助金制度が、かなり市の書類でも推奨しているのがよく分かります。ただ市内にある市の施設の単独浄化槽が何基あるのか、これが合併浄化槽に転換する予定があるのか、むしろ市民を優先する前に市役所が自ら市の施設を、単独浄化槽を切り替えるのが筋じゃないかと思いますが、それを教えてください。

坂齊環境保全課長

市の施設で単独もしくは汲み取りであるかどうか調査をしております、調査結果をいま取りに行っておりますので、その結果を見て御報告させていただきます。

菊池委員長

ほか、別件ではよろしいですか。

上口委員

それでは別件で。先ほど、放射能の件がありましたが、市の努力ももちろん充分理解できました。ただ6年もたちますと半減期に差し掛かっていますので、何の努力もなしにどんどん下がるだろうと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

坂齊環境保全課長

セシウム134と137がございまして、134につきましてはおっしゃるとおり、2年が半減期ということで、2年ごとにもう8分の1に落ちてございます。ただ137については、半減期が30年ということで、これからはもう落ちないのかなということがありますので、モニタリングをしっかり行いながら、監視だけは深めていきたいと思っております。

浅野委員

清掃工場の方ですけれども、焼却残渣は濃縮されて、放射能の話もありましたけれども、柏の方で濃縮されてかなり高い濃度の放射能物質の処理に困っている話を伺っております。野田市の方で分かる範囲でよいので現状をお聞きしたいと思います。

知久清掃第一課長

埋め立ての基準につきましてはご存知のとおり、8000ベクレルという値ですが、野田市の場合ですと、震災当時から剪定枝を焼却しておりませんので、8000ベクレルの

半分4000ベクレルも超えるような測定結果を今まで測定された経緯はありません。

今井副委員長

29ページの地球環境保全のところですが、炭酸ガスの削減は非常に大きな問題で、野田市も一生懸命取り組まれていることは分かりますが、この表のところで21年度の電気や燃料が横棒になって数字が入っていませんが、ここに数字が記入されていると目標に対しての現状が判断できると思います。もし、数字があるのであれば是非入れられたらどうでしょうか。

それから、他の表もそうですけれども、21年度を基準にされているということですが、表現が現在値と書かれているので、少し分かりにくいのかなと思います。あるいは基準値と書かれた方がいいのかと思います。

坂齊環境保全課長

こちらの内訳については、数値がありますので、それぞれの数値は記載する方向で修正させていただきたいと思います。

また、現在値については、基準値という形で修正させていただいてよろしいでしょうか。

今井副委員長

それが分かりやすいと思います。

菊池委員長

21年度を現在値としているのですか。

坂齊環境保全課長

基本は、21年度を現在値としていますが、一部変わっていて、例えば温室効果ガスの現在値は23年度の値が基準値となっております。なぜかという、野田市の地球温暖化防止の実効計画が5年ごとに見直していくと、23年度に見直しましたので値がこのようになっています。

菊池委員長

基準値と書くと環境基準値などいろいろな基準値がありますので、基準という言葉は使わない方が良くと思います。例えば、カッコ内などに計画開始時など分かりや

すい表現を考えていただきたいと思います。

坂齊環境保全課長

それでは、分かりやすい言葉を考えまして修正するような形で次回に報告させていただきます。

菊池委員長

是非、27年度の報告から直していただきたいと思います。

今井副委員

たばこの報告を含めて、条例を作って活動をされていると思いますが、それについての記載はどこかにありますでしょうか。せっかく、活動されているので載せた方がいいのかと思いましたので。

坂齊環境保全課長

載せ方といたしまして、第3章は環境基本計画の中の進捗状況という形で環境指標が出ているものに対して、環境調査報告書で経過を報告する形になっております。現在、重点区域の調査を継続しておりますので、それらの経年変化などをそれ以外の章で次回の報告書の中では、入れさせていただきたいと思います。

田中環境保全課長補佐

先ほどの、上口委員からの御質問の件ですが、先日、公共施設におけるトイレのし尿処理方法ということで、各施設管理者の方に照会をさせていただきました。その結果、合併浄化槽による処理の方法が82件、単独浄化槽が34件、汲み取りが53件、公共下水道が105件となっております。

菊池委員長

その数値だけでよろしいですか。

上口委員

先ほど求めたのは、単独、あるいは汲み取りの場合は、どのような対策をとるのか、今後の経過を教えてほしいというところまで、言及させていただいたつもりですが、いかがでしょうか。

渡邊下水道課長

単独浄化槽、あるいは汲み取りについては、繰り返しになりますが、補助金をもって合併浄化槽の方に促進していくことを考えております。

上口委員

今の説明を伺っておりますと、市の施設にも補助金が適用されると聞こえますが。

渡邊下水道課長

市の施設に補助金があるかどうかは、確認させていただきます。併せて市の施設の管理者に公共下水道が入っていれば、速やかに接続してくださいとPRさせていただきたいと思っております。予算との絡みもありますので言い訳にもなりますが、速やかにと考えております。

上口委員

予算とかの問題の以前で、予算は承知しております。ただ、なぜそこまで手をつけなかったのか、ここが問題です。例えば、このような単独浄化槽が市の施設でありますと、平成何年度までに合併浄化槽化したしますということを市民に知らせることも重要だと思っております。それから、単独浄化槽および汲み取り便槽の合併浄化槽の年間の基数が非常に少ないですね、これの拡大についても御考慮いただきたいということをもって、私の質問を終わらせていただきたいと思います。

柏倉環境部長

公共施設についてきまして上口委員のおっしゃるとおりで、対策が遅れているとお詫びを申し上げなければいけません。下水道課とは別に、環境部といたしまして環境問題の一環として、今後市の施設管理者と協議を重ねまして市としての取組みは、今後の課題として取り組んでいきたいと考えております。

山中委員

公共水域の汚濁について公共下水道の普及が相当重要だと思っておりますので、この資料の中に公共下水道の進捗率や接続率がどうなっているのかなどを入れた方が、これに馴染まないかどうかは判りませんが、河川の浄化に相当大きく寄与する施設ですので、そういう部分では地域の何パーセントが公共下水道の計画区域になっていて、

現在どこまで進捗しているのか、又はその供用開始区域の中での接続率がどうなっているのか、確か3年以内に接続しなさいということになっておりますので、いろいろと家庭の事情があるかと思えますけど、接続率が重要となると思えます。基本的には河川の浄化の裏資料として大きく支える事業ですので、その資料も入れていただいた方がよろしいのかなと思っております。私の方は、以上です。

坂齊環境保全課長

公共下水道の普及率につきましては、資料の30ページの水質環境保全の中で27年度の実績については64.7%という形で、少ないですけどももう少し詳しい資料を載せた方がいいということであれば、どこかでそういった資料を載せる工夫は、考えたいと思えます。

山中委員

せっかく市民に見える資料ですので、行政も細かくそういうことをやっているということを知らしめた方が良くと思えます。

添野委員

122ページです。環境美化の一つでごみゼロ運動というのが記載されていますが、私も毎年参加させていただいております。これは、自治会やいろいろな枠組みを超えた皆さんが集まりまして、各地域に集まってやっているわけですが、これは平素の環境美化運動を超えた思想の普及、その他においても結構重要な大事な活動ではないかと思えます。ここでは、あっさりと書いてございますけれども、環境美化運動を超えて野田市においてどのような地区で、どのくらいの方が集まりどんな成果が上がっているのかという意味合いのことを、もう少し具体的に内容が分かるような形で、明示していただいたら普及にも役立っていくのではないかと思えます。

坂齊環境保全課長

ごみゼロ運動に関しましては、多数の参加団体がございますので、そういった形のものをわかるような形で、変更させていただきたいと思えます。

関根委員

27ページの環境基本計画のことについて御提案をさせていただきたいのですが、冬季湛水事業による再生湿地数ということで、評価をされておられますが、町の中にあ

る田んぼに数に限りがあるので、数で目標値を設定するのは、限界が数年後には出てくることがあると思います。回を重ねるたびに土質なども変わってきますし、水がしみ込んでいくような、お水も将来的にはきれいになっていくでしょうし、土質が良くなっていくというデータも取れると思うので、数だけではなくて湛水事業をしている湿地の性質をデータで記録しておく数年後には、良い評価ができるじゃないかなというのもあるので、数だけではなく再生湿地をしたことによって、生物多様性ではないですけども、虫が増えたなどのデータも取れてくると思うので、そういった調査をされるのはどうかなと目標達成に向けてですけども、何かそういったところで環境指標というのが出るといいのかなと思いますがいかがでしょうか。

山下農政課長

御指摘いただきました冬季湛水は、簡単に言いまして、ふゆみず田んぼということで通常は、夏場の灌漑期だけ水を張っているものを冬場にも水を張って、そうすると生物が増えてなおかつ、稲作にも良い影響があるのではないかとされているものですので、そのようなことをやっているところでございます。ただ、土質の状態がどれほど良くなったとか、そういった判断は非常に難しいものでありまして、例えば、おコメの味が良くなるのではないとか収量が上がるのではないかとすとか、そういう形での期待はしていますが、土壌がどれほど良くなったという判断は非常に難しいと思います。ただ、生き物がどれほど増えたかというのは、把握は可能ではありますが、農政課としては生物多様性もそうですが、稲作にどれだけ有効であるかと合わせて行っていますので、当面は数を増やしていきたいなということで、細かい数、生物の何がどれだけ増えたということになりますと、ちょっと難しいかなと感じております。あくまでも今後とも数をどんどん増やしていきたいと思っています。

菊池委員長

農政課としては、生物の数まではまた、土壌に関しては難かしいということもあり、現在測定もしていないことから、農政課としては難しいということだと思いますが、何らかの効果が書けたらということですけども。

そのようなことを調査するという事は、市だけの努力だけではないと思いますけれども、今すぐには書けないですけども将来のことをお伺いしたいと思っています。

柏倉環境部長

農政課長からもいろいろ難しいという話がありました。委員の方からも生物多様性

もあるだろうとの話がありました。今後担当課も含めまして、検討事項として進めてまいりたいと思いますので、すぐには記載できないと思いますが、今後各課の会議の中で検討していきたいと考えています。

関根委員

もう一件よろしいですか。

28ページのことですが、良好な景観の形成というところで、米印で現状はと書いてありますが、基本的には都市計画と景観の計画は連動していますので、景観計画は都市計画マスタープランの見直し後に策定を開始するということは理解できまして景観計画が未策定であることから評価を行っていないと、自分からマイナスなことをあえて言わなくても良いのかなと、努めているなどとして、マスタープラン見直し後に策定を開始し、景観計画を踏まえ、評価を行う予定であるなどの表現がいかがかなと思います。

坂齊環境保全課長

委員のおっしゃるとおり、その辺は修正なり良い表現がないか検討させていただきたいと思います。

山中委員

冬季湛水事業の実績評価、将来目標値のことで、箇所数が入っていますが、これに併記して、箇所が増えても面積が増えていないということがありますので両方併記した方がより見えやすい、推移が見えやすいということになると思いますので、最終的な目標は、面積を増やすことにあるかと思いますが、そういった形の表記の方がよろしいのかなと思ったところです。

田中環境保全課長補佐

面積も加えさせていただきたいと思います。

菊池委員長

104ページのところですけれども、表7-9のところから調査をしていますけれども、毎年同じ所でやるのではなくて、地点を変えて調査をしているようだけれども、それが面的評価として要求されていることですか。

坂齊環境保全課長

国道16号については、2年をサイクルに同じ場所に戻り、そのほかの路線については、5年で同じ場所に戻って測定しなさいというようなことがありまして、年次計画で戻ってきているというような形になっております。

菊池委員長

5年がサイクルになっています。これは、25年度から始まった事業でしょうか。

坂齊環境保全課長

24年度です。

菊池委員長

これで1サイクルということですね。

坂齊環境保全課長

そうです。

菊池委員長

ほか、いかがでしょうか。

いろいろと御発言いただきまして、まだ御発言いただいていない方もいらっしゃいますが、たくさん議論していただきました。特に、初めての方のご発言が重要だと思いますので、もし何か御意見がありましたらお願いします。

石山委員

39ページの窒素酸化物で一酸化窒素の月別測定結果が出ていますが、冬季に測定値が高くなる傾向がみられて、グラフもそうっております。この理由というのは分かっているのでしょうか。

坂齊環境保全課長

はっきりした理由は分からないですけれども、傾向としてPM2.5の関係がありまして、PM2.5が冬季に上がるという形で、そういう物質が変化してPM2.5になるということもありますので、それがイオン系なのか粒子状のものなのかよく分かりませんが、

大陸の方から原因物質が流れてくるのか、はっきりした原因は分かりませんが、そういったものではないかと考えております。こちらは千葉県がやっておりますので、聞いてもし判ればそういった原因のことも記載させていただきたいと思えます。

石山委員

ぜひ、分かったら教えていただきたいし、結局、野田だけではないと思えます。日本全国でこのようなことが当てはまってくるのかどうか、その辺も教えていただけたらと思えます。

関口委員

24ページの写真ですが、環境審議会の風景ですが、毎年同じようですが。

菊池委員長

是非、最新のものがあればお願いします。

事務局

はい、分かりました。

菊池委員長

それでは、これでよろしいようでしたら、審議の方は終了したいと思えます。いろいろ御意見もありました。書き直しがあると思えますけれども、全体の報告書の案については、大幅に考え直してくれとの話ではなかったと思えますので、議案は、了承し部分的に追記等をしていただきたいという意見だと思えます。今日の委員の意見をうまくまとめていただいて、次回に拝見させていただきたいと思えます。

それでは、みなさんに御同意いただけるのであれば、基本的には了承するということにしたいと思えますけれども、よろしいでしょうか。

<委員一同了承>

菊池委員長

ありがとうございました。

それでは、以上で本日の議題は、終了いたしました。

そのほかに、事務局から何かありましたらお願いいたします。

田中環境保全課長補佐

本日、審議していただきました野田市環境基本計画の見直しについては、次回の答申をいただきたいと思います。次回は、3月22日水曜日10時から、当会議室で予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

菊池委員長

以上をもちまして、本日の審議会を閉会したいと思います。
長い時間、ありがとうございました。